

# ライフステージと発達に応じた自転車安全教育

自転車安全教育は **安全と信頼** を結ぶ **交通の架け橋** となり、 **未来を変える行動** につながる

「**自転車は人生を豊かにする**」

人・自然・まちとのコミュニケーションが生まれ、新たな世界につながる。

自転車で、風を切って自由に行ける楽しさを手に「**自転車を持つチカラ**」を体感してほしい。



## 京都市とともに安全教育の開発と実践



京都市立大宮交通公園

- 令和3年4月にリニューアル 自転車広場・模擬道路・コミュニティルーム・自転車店がある
- 京都市とともに実践して開発してきた自転車安全教育を、公園内の自転車店が楽しく自転車安全教育を実施。



**未就学児**

キックバイクで「遊びながら学ぶ」



**高齢者**

自らの身体能力を「遊びながら認識」して事故に備える

### ■京都市立大宮交通公園モデル

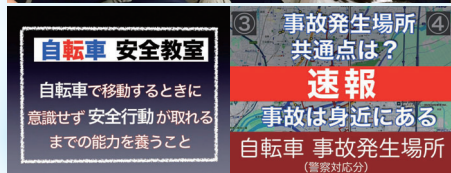
### ■身を守る術を「楽しく、わかりやすく」を大切に実践



**中学生・高校生**

校区に潜む危険個所を知って、身を守る必要な知識や技能を身につける

「なぜ」「どうして」の視点から行動変容につながる工夫が大切



### 中学・高等学校での授業としての継続

### 自転車安全教育をひろく伝えるために

警察庁の組織する自転車安全教育ガイドライン策定に向けての官民協議会の構成員として協力

**自転車安全利用のゴール**

**どの年齢層**においても **意識せず**に安全行動が取れる **能力を養う**

## 小学生対象サイクリング



**小学生**

実際の道路環境で走り方を「楽しく走って学ぶ」



走行中の自動車や自転車の会話は手を使っての「**コミュニケーション**」大切な身を守る術の一つ

### ■まちを走って、学んだことを実践



### ■「自転車を持つチカラ」を体感できる機会づくり



**発達に合わせた教育**

子どもの発達段階に合わせ、大切な身体の使い方や協調性、考える力を「無理なく楽しく学ぶ」



## インクルーシブ・サイクリング



自転車安全教育のハンドブックを作成中

### ライフステージと発達に応じた教育で

**事故に遭わないための知識・技能を身につける**ことが必要

※当たり前前の交通ルールだけでは不十分



**6 W 1 H**  
**5 W 1 H**

(いつ、どこで、誰が、何を、どのように)  
+  
**ターゲット**を意識した  
Whom(誰に)

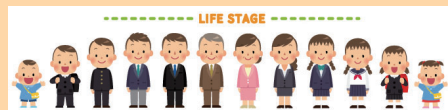
**地**域特性

地域の交通環境や  
事故発生状況に  
則した教育が必要

**年**齢特性

関心ごとを捉え、  
**気になるワード**の  
理解を高め、  
納得から腑に落とす

## ライフステージと発達に応じて伝える手法を工夫



リスクやメリットを自身で判断し  
実践できるようになるための  
**「理解」を重視**した教育



未就学児 } 子ども自転車教室 (自転車ゲーム)  
小学生 } 子どもサイクリング教室 (実技)  
中学生 } 見て分かる自転車安全教室  
高校生 }  
大学生 } 交通環境の違いと意識  
高齢者 } シニア自転車健康教室  
障がい者 } インクルーシブ・サイクリング



### 未就学児



**空間認識能力を身につける**  
遊びながら学ぶ(自転車ゲーム)

自転車ゲームの「遊び」を通して、  
自分の置かれている環境を把握し、  
変化に対応できる能力を習得する  
ことを期待



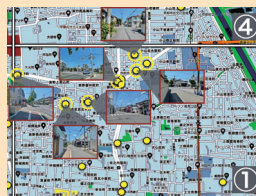
出典: 遊びながら学ぶ 幼児期から始める子ども自転車安全教室

### 児童～学生



**身近なこと = 他人事から自分事へ**  
知識レベルに応じて  
意識変化から行動変容へと導く

自転車で移動するとき意識せず  
安全行動がとれるまでの能力を養  
うことを期待



伝えるポイント

- ① 事故は身近にある
- ② 右側通行は危険
- ③ 交通ルール + 交通コミュニケーション

・警察署HPIにある交通事故データを活用  
・知っている地域の事故を知る

### 高齢者



**身体能力を自ら認識して**  
事故に備える

遊びながら学ぶ(自転車ゲーム)

自転車ゲームを通して  
自分の身体能力を自分で確認する



### 活動など

自治体・教育機関と協力して取り組みを実施



令和3年度 近畿運輸局  
バリアフリー化推進功労者表彰を受賞



令和5年度  
自転車活用推進功績者表彰を受賞

